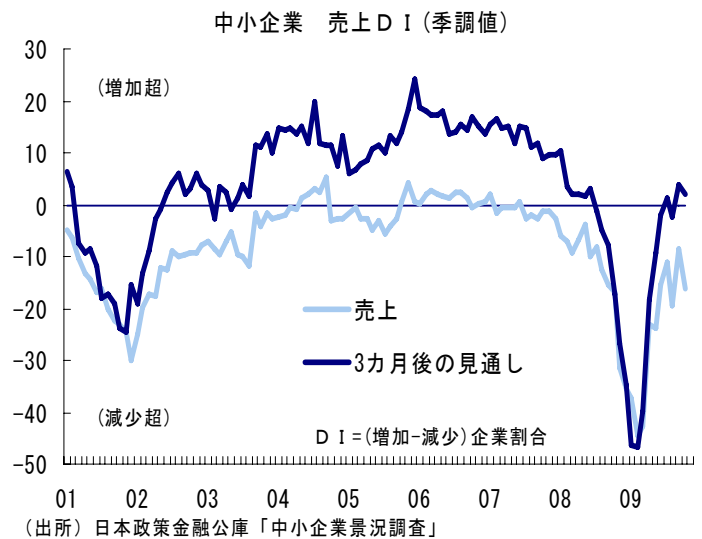
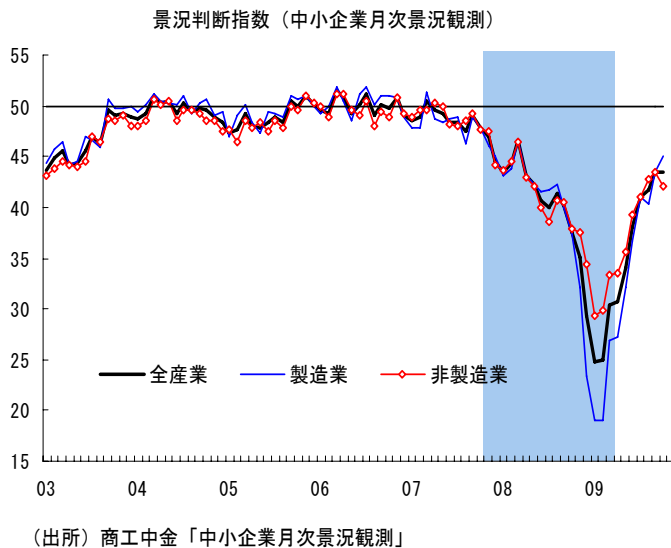


指標名: 中小企業の業況(2009年10月)
～9ヶ月ぶりの景況判断指数低下～

発表日2009年10月28日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 岩田 陽之助
TEL : 03-5221-4525



○景況判断指数：前月差▲0.1pt

商工中金から公表された「中小企業月次景況観測」の10月の景況判断指数(1000社調査)は全産業で43.4(前月43.5)と、9ヶ月ぶりに小幅低下した。「好転」「悪化」の分岐点となる50も31ヶ月連続で下回っている。内訳をみると、製造業は金属製品、木材・木製品や化学を中心に45.0(前月43.4)と1.6pt上昇した一方、非製造業はサービス業や小売業の低下から42.0(前月43.5)と1.5pt低下した。

また、日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」では10月の売上DIは▲16.3(前月▲8.5)と7.8pt低下した。こちらも「増加」「減少」の分岐点となる0を28ヶ月連続で下回っている。

このように、振れを伴いながらも持ち直しが続いている中小企業のマインドだが、1月以降の様な急速な回復ペースには陰りが見え始めている。中国を中心とした海外経済の回復を背景に製造業の持ち直しは続いているものの、雇用や設備過剰感を背景とした内需の弱さが非製造業の業況改善の重石となっているようだ。

先行きについては、①「中小企業月次景況観測」の今後3ヶ月の売上げ見通しDIが、1.9pt(前月3.8pt)とプラスが維持されていることや、②「中小企業月次景況観測」でも11月の景況判断指数は全産業で43.9ptと上昇が見込まれていることから、改善傾向は続くと思われる。もっとも、非製造業について、冬季ボーナスの大幅な減少により個人消費の弱含みが懸念されるほか、後述の様に製造業についても懸念材料がみられることから、回復ペースの足取りも重くなるだろう。

○経済対策効果が弱まってきている可能性

今回の結果を業種別に見ると、特に電気機械、輸送用機械の結果が注目される。「中小企業月次景況観測」の景況判断指数は電気機械が前月差▲3.0pt、輸送用機械が同▲5.0ptと共に低下しており、「中小企業景況調査」の最終需要分野別売上の動向をみても、乗用車関連が同▲10.9pt、家電関連が同▲26.8ptと低下した。両業種はここまでエコカー減税やエコポイントなどの各種経済対策によって需要が押し上げられてき

たが、これらの政策効果が一巡しつつある可能性がある。10月のロイター短観においても、輸送用機器については先行き悪化が見込まれている。製造業の業況は持ち直しが続いているが、先行きの回復ペース鈍化が懸念される。